

## SDGs目標17 「パートナーシップで目標を達成しよう」

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバルパートナーシップを活性化することをゴールに掲げています。この目標には、持続可能な開発目標の達成に向けて、必要な知識、専門的知見、技術、経験などをあらゆるステークホルダーが共有し、国内外におけるパートナーシップを強化することも含まれています。

# Action 17 博報堂生活総合研究所

博報堂生活総合研究所は、30年以上にわたり、生活者研究を続けてきた、世界にも例のないシンクタンクです。人間を「まるごと」観て、生活の未来を考える、「生活者発想」を実践・推進する研究所です。生活者の価値観の変遷を時系列調査で追跡する、実験的な手法から未来への兆しを見出す、生活の現場へ飛び込み生活者といっしょに考えるなど、生活者に対し多角的かつユニークな観点と、市場や業種の枠を越えた俯瞰的な立場で活動しています。2012年5月には上海に「博報堂生活総研」、2014年3月にはタイに「博報堂生活総合研究所アセアン」を設立しました。

ひらけ、みらい。



「生活者発想」は、  
人の立場や気持ちに気づく大切さを  
教えてくれる。

ひらけ、みらい。  
生活総研



今年、「みらい2018進貨論 ～生活者通貨の誕生～」を発表した際、女性のキャッシュレス反対派が6割もいたという調査結果にたくさんの反響がありました。われわれの調査・分析結果が世の中の関心をあつめるのは、どうやら自分自身の感覚と違う結果が出てきたときのようなようです。自分とは明らかに違う考え方・価値観を持つ人が世の中にこんなにたくさんいることに気づくのは、とても大事なことだと思います。偏見や誤解は情報と想像力の不足から生まれるもの。そういう意味では、私たちは「生活者発想」で人の想像力を補い、「あなたの考えていた世界と現実の世界を比べてみませんか？」と問いかけているつもりです。「生活者発想」の実践で目を向けるべきなのは、自分とは違う考え方を持つ他者の存在ですが、その前に重要なのは、実は自分自身。自らを「第一生活者」として井戸のように掘り下げること、他者と通底する本質的な何か突きあたるからです。つまり、「生活者発想」とは視点の移動。角度や高さを変えて自分とは違う視点を持つということでもあります。これはSDGsの基本である、相手の立場に立って考えることと同じです。「生活者発想」

とは、その大切さをあらためて気づかせてくれるものでもなと思っています。それはグローバルパートナーシップという点でも有効です。これまでも日本の博報堂生活総合研究所は生活者の本質を洞察する知見やノウハウを、中国とアセアンの生活総合研究所に提供し、現地に根差した生活者分析をサポートしてきました。3研究所による合同調査の計画も進めています。こうした活動を通じて、「生活者発想」が経済を活性化させ人を幸せにする、新しい「社会のOS」のようなものとして広がってほしいと思っています。



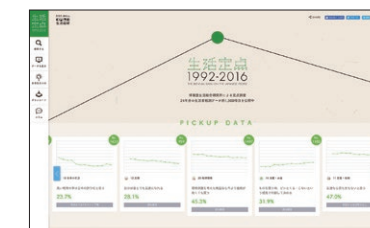
博報堂  
博報堂生活総合研究所  
石寺 修三



1986年から30年にわたる、60～74歳を対象に実施した調査の結果をまとめたレポート「シルバー30年変化」を2016年6月に公開しました。



1997年から10年毎に小学4年～中学2年生の子どもたちを対象に調査を行い、その結果をレポートにまとめ、「こども20年変化」として2017年6月に公開しました。



定点調査「生活定点」は2年に1度実施しています。24年分の生活者観測データ約1,500項目を2012年よりホームページにて無償で一般公開しています。